# 元気な街・みとプログラム

## 浜田学区版

1 地域の声を実現します
2 「市民が主役」を貫きます
3 未来を考えます

### 地域の声を市政へ

下市地区の人口は、昭和60年をピークに減少傾向をたどっています。それでも浜田学区は人口一三、二五八人、世帯数五、四九九件と市内31小学校区の中でも5番目の規模です（平成15年2月1日現在）。本町通りではシャッターを下ろしたままの店舗が増える一方であり、地域と行政が一体となった商業振興策が求められています。渋井町の東部浄化センター予定跡地については運動場整備などの暫定利用が市議会で答申されましたが、今後の本格的議論では地元の声を反映させなければなりません。玉造順一は、生まれ育った浜田学区の皆さんの声を市政へとどけ、その途中経過や結果などをわかりやすくお伝えするパイプ役をめざします。

### 一歩進んだ街づくりを

浜田学区はITのすき間であることをご存知でしたか？下市地区は大町のNTTから電話線が引かれており局からの距離が遠く中継局もないため、高速でインターネットが利用できるADSLに不都合があるのです。近い将来、インターネットを通して家にいながら24時間お医者さんに診察を受けたり、役所のさまざまな手続きを行えるようになるでしょう。それに備えて今整備をする必要があるのです。水戸市でも「情報通信ネットワークの整備」を総合計画に位置づけているのですから、この分野においても地元の要望を反映した市政の実現が望まれます。

○ 年をとって買い物に行くのにも大変。車が運転できないと本当にひと苦労する。
○ 福祉施設に入所していると洋服や日常品など職員の人に買い物を頼むため、自分で品物を選んで買い物ができない。
○ 長引く不況で店の売上が落ちている。商業の振興を図ってほしい。

## 【新しい発想で元気な水戸を】

皆さんの声を結びつけて、街づくりや福祉の充実を図っていくのが政治の役割だと玉造順一は考えます。例えば、バスなど公共交通の充実やお年寄りへのタクシー初乗り無料券配布が実現したらどうでしょうか。福祉施設で商店街の皆さんが出張販売できたらどうでしょうか。玉造順一は、市民が身近な地域のなかで安心して暮らしていくことができる街づくりを最優先に取り組みます。